

隨泉寺寺報

平成17年(2005年)8月号 第420号

082-892-0217 <http://ww41.tiki.ne.jp/~tetunari4/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

お盆会法座

講師 住職自修

講題 「お盆を迎えるにあたって」



仰せに、仏心の蓮華はむねにこそひらくべけれ、はらにあるべきや。「弥陀の身心の功德、法界衆生の身のうち、こころのそこに入りみつ」(同・本)ともあり。しかれば、ただ領解の心中をさしてのことなりと仰せ候ひき。ありがたきよし候ふなり。34 蓮如上人御一代記聞書 1235-1

梅雨が上がったら、毎日30度以上の真夏日が続く、今年も暑い夏が来たという感じでしたが、また一休みという風ではっきりしない天気が続いています。

7月23日は隨泉寺ビアガーデンでしたが、始まって30分もしないうちに雨が降り出しました。最初はたいした雨ではないので、涼しくなって丁度いいと思っ
ていましたが、途中から雷はなるし、豪雨となり、ビール片手に右往左往と大変
でした。27日～28日は少年少女の研修会でした。今年は募集の時に二日目の
日が小学校の登校日と重なり、参加者が少なかったのですが、楽しい研修会で
した。どちらも楽しいだけでなく、お寺の本堂に集まったという事に意義があ
ると思っています。お念仏は毛穴から「身のうち、こころのそこに入りみつ」
です。

16日は初盆の法要を勤めます。懐かしい人の面影をしのんでお参り下さい。

8月の法座予定

8月16日朝席午前10時より……お盆会法座

8月16日昼席午後1時より……初盆追悼法要

9月2日午後6時より……門信徒会本部役員会

平成17年初盆を迎えられる方

俗名	法名	命日	享年	地区
濱野 博寿	釋孝静	平成16年8月10日	72才	井原
川端 波枝	釋浄波	平成16年8月13日	95才	荒野
山根 秀春	釋教秀	平成16年8月20日	54才	長者原西
林 達夫	釋達暁	平成16年9月2日	82才	上平原1
日下 道夫	釋行道	平成16年9月5日	64才	瀬野
渡辺 千代子	釋智代	平成16年9月8日	83才	望ヶ丘
尾木原 巖	釋大巖	平成16年9月14日	59才	上平原2
大久保 敏一	釋教敏	平成16年9月15日	59才	長者原東
高田 政行	釋宣忠	平成16年10月3日	86才	志和
土橋 陽一	釋道意	平成16年10月23日	80才	井原
上埜 勝己	釋広勝	平成16年11月6日	40才	荒野
大森 トシ子	釋明俊	平成16年11月9日	68才	望ヶ丘
白附 一	釋一心	平成16年11月12日	57才	上平原2
植木 富恵	釋普念	平成16年11月14日	86才	荒野
満岡 トシエ	釋尼恵真	平成16年11月16日	96才	井原
倉本 哲雄	釋勇哲	平成16年11月29日	55才	上平原2
梅田 アキコ	釋尼繁昌	平成16年12月15日	92才	中須賀
古川 テルノ	広慧院釋浄信	平成16年12月20日	90才	上平原1
染井 春枝	釋春調	平成17年2月1日	81才	上平原1
酒井 初子	釋妙華	平成17年2月12日	84才	他所
平原 ヒデ	釋清秀	平成17年2月13日	97才	平原東
中島 憲治	釋清憲	平成17年2月20日	57才	平原西
森田 春三	釋春和	平成17年3月19日	69才	瀬野川団地
平野 ヨシコ	釋明良	平成17年3月27日	97才	他所
吉岡 シズ子	釋静照	平成17年4月2日	76才	平原東
佐々木 和仁	釋和顔	平成17年4月7日	79才	望ヶ丘
出口 秀雄	釋智秀	平成17年4月12日	77才	他所
忠末 力男	秀徳院釋照力	平成17年4月14日	81才	他所
二野宮 守	覚証院釋願成	平成17年5月1日	84才	出宮
松長 ヨシコ	釋浄善	平成17年5月14日	87才	他所
川崎 忠志	釋審忠	平成17年5月24日	61才	他所
古川 猛	正智院釋証理	平成17年5月25日	69才	他所
若林 好枝	清誠院釋明心	平成17年5月30日	58才	他所
竹内 正博	釋博真	平成17年6月3日	67才	井原
川本 勝	最勝院釋帰道	平成17年6月4日	22才	上平原1
平原 勉	釋了勉	平成17年6月4日	85才	平原東
西井 ミツコ	釋尼明了	平成17年6月22日	88才	長者原西
渡辺 一夫	釋一信	平成17年6月23日	90才	望ヶ丘
荒野 義彦	釋晃榮	平成17年6月29日	73才	荒野
内山 巖	釋浄巖	平成17年7月3日	64才	他所
中野 ツルヨ	釋証真	平成17年7月6日	86才	出宮
石本 誠悟	釋証誠	平成17年7月7日	55才	平原西
中原 茂	釋光茂	平成17年7月17日	69才	上平原1
津麥 保子	釋尼静見	平成17年7月17日	69才	ローズビラ
土本 春枝	釋明春	平成17年7月31日	74才	津村

母の思い出

今年4月2日午後3時49分 母 吉岡 シズ子は75歳で永眠致しました。昨年1月頃より、体調を崩し、入退院を繰り返し、5月に脾臓の手術をした際、ガンである事が判明、手術で切除する事はできない状態で医師からは余命10ヶ月余と告知されました。本人へは精神的な面を考え、又、回復する希望、生きる事への希望を持たせるため、私と夫の胸の中に留める事とし、父にも伝えませんでした。今後の治療のこともあり、病名がガンという事だけ医師から伝えられ、手術については成功したと伝えられました。

その後1ヶ月位経った頃に症状が落ち着き、いったん退院すると同時に、通院による抗がん剤投与の治療を開始しましたが、体力がついていけず、投与を中止せざるを得ませんでした。

お正月も父・母それと私の家族全員で過ごすことができましたし、母も喜んでいました。家の中で常に寝ている状態が続き、父も優しく接するようになり、「今が本当の夫婦になれたような気がする」とうれしそうに言っていたのを、昨日のこのように思い出します。

今年の1月27日にはそれまでに少しずつ溜まってきた腹水の影響で動くことも困難となり再入院致し、その時に、医師からはあと1ヶ月くらいと言われ、闘病生活が続きました。母は日ごろから明るい性格上、先生や看護師さんと冗談を言う事も多く、看護師さん達から前向きな明るい人で自分たちが逆に励まされたり、勉強させられる事がたくさんあると言われていました。

私からみれば悲しい中、たいへんうれしく感慨深く、最後は家族皆に見守られて、眠るように息を引き取りました。

母は生前お花が好きで、家の周りにいろんな花を植え、母の没後も花はその季節にあわせて色彩ゆたかに咲き誇っています。

その花を見るたびに生前の明るかったユーモアのある母の姿を思い出します。

小さい頃から見えてきた母は、百姓をしていて、いつも周りにたくさんの友達がいて、面倒見がいいなと思っていました。家の周りで野菜を作り、家だけでは食べきれず近所の人や通りがかりの知っている人によくあげていました。そうして喜んでもらえるのも楽しみの一つのようでした。最後に病院の先生、看護師さん達、近所の方々、家族のみんなに感謝の気持ちで一杯です。

合掌

平成17年7月

吉岡 緑

吉岡 シズ子 法名 釋静照 平成17年4月2日往生 行年 76才

八月

「生きている」 つもりのまんま

「生かされている」 私

カレンダー8月号 東井 義雄

「目」があって、それが、どんな仕組みになっているのか、何でも見せてくださるのです。

「耳」があって、それが、どんな仕組みになっているのか、何でも聞かせてくださっているのです。「鼻」に穴があいていて、呼吸がはたらきずめにはたらいてくださっているのです。この呼吸がとまったら、忽ちのうちに死んでしまわなければならない呼吸です。いのちにかかわる呼吸です。そのいのちにかかわる呼吸を、その主人公である私は、忘れっ放しなのです。その忘れっ放しの私のために、夜も昼も、土曜も日曜も、盆も正月も、一瞬の休暇もとらず、はたらきずめにはたらいていてくれるのです。「口」があり、「口」には「歯」があり、「舌」があり、食べものを噛みこなすはたらきをしていてくれるのです。食べ物「胃」に入り「腸」に進み、血にし、肉にし、骨にし、はたらきのエネルギーに変えていくのです。胸の中では、「心臓」が、これも年中無休ではたらいてくれているのです。「生きている」 つもりでいたら、何もかも「生きさせてもらっていた」のです。仏さまは、私の中で、私といっしょに、私のために、忘れっ放し、逆きっ話しの私のために、生きてはたらいていてくださったのです。



はらがたつなら ねんぶつもうせ
ぶつ(仏)もこころで なむあみだぶつ
はらがたつなら ねんぶつもうせ
ぶつ(仏)もぶつぶつ なむあみだぶつ

浅原 才市